

市独自のエンディングノート さくらノート

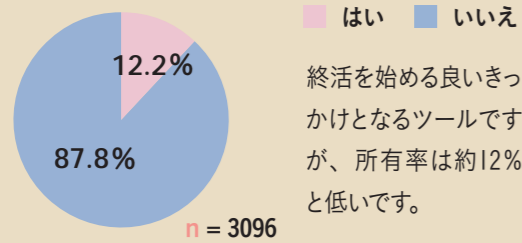
自分の考えや思いを家族に伝えるためにも、
まずは気軽にさくらノートを書いてみましょう。



さくらノートは、かけがえのない人生や郷土への思いを絶やすことなく、「もしも」の場合にも自分の考えや思いをしっかりと伝え、書き残しておくことができる市独自のエンディングノートです。

他市では、エンディングノートの配布対象者を高齢者に限定しているところが多いですが、大府市では、年齢制限はありません。希望する方全員に福祉総合相談室(8番窓口)で配布していますので、この機会にぜひ手に取ってみてください。

Q あなたは、エンディングノートを持っていますか？



終活を始める良いきっかけとなるツールですが、所有率は約12%と低いです。



出典 NPO法人ら・し・さ(終活アドバイザー協会)「終活意識全国調査」

自分らしい人生の棚卸しを

市成年後見センター(行政書士) 中島崇

最近、一人一人がそれぞれの考え方や価値観を主張する時代です。それに伴い家族のつながりが希薄になっています。高齢者世帯や単身世帯が増えている中、トラブルを未然に防ぐため、市のセーフティーネットとしての終活支援や終活登録制度が重要になります。

終活といっても何をすればいいのかわからない方は、遺言を書く前の準備段階として、ぜひ「さくらノート」を書いてほしいです。さくらノートで人生の棚卸しをして、自分の考えを整理する機会にしてください。

これからのことを整理するきっかけに

さくらノートには、今までの人生を振り返るページがあります。書いているうちにすごく懐かしい気持ちになりました。最後まで書き切れてはいませんが、実際にさくらノートを書いてみて、まだまだこれから決めていく必要があると分かりました。どういう人たちにどういうことを頼んでおくのかなど、準備することはたくさんあるので、自分の身の回りを整理整頓するきっかけになりました。

吉田利和さん



さくらノートの使い方

HOW TO

- 書けるところから書き始めましょう。
- 何度書き直しても大丈夫です。
項目によっては、鉛筆や書き換え可能なボールペンで記入すると便利です。
- このノートは、家族や信頼できる人に伝え、保管場所も明らかにしておきましょう。

注意事項

CAUTION

- さくらノートには、法的な効力はありません。遺言・医療の方針などについては、法的効力がある遺言書などで示す必要があります。
- 重要なプライバシーに関する項目があるので、記入内容・保管については家族などと相談し、厳重に取り扱うことをお勧めします。
- ノートに記入した内容・保管方法の責任は、本人と管理者にあります。
市職員が記入内容について聞き取りを行うことはありません。

急な病気になったとき、認知症になったとき、
あなたはどのような支援を受けたいですか。

パートナーや家族などの大切な人たちに
どのように接してもらえるとうれしいですか。

人生100年時代を迎えた現代。
これまでの自分を振り返り、
これからの人生をイメージするための
「終活」は、とても大切です。

「若いから自分には関係ない話だ」
「まだ元気だから、後になってから考えよう」と
どこか他人事に考えていたり、
先延ばしにしていたりしていませんか。

最期は、いつ訪れるかわかりませんし、
急に訪れる可能性もあります。

「終活」に早過ぎるということはありません。

自分の人生を自分らしく生きるため、
自分が大切にしていることや、
これからどうやって生きていきたいのか、
一度考えてみませんか。



今後の人生を

考える

大切な人に

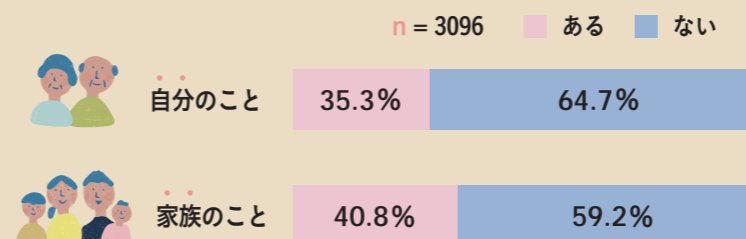
伝える

福祉総合相談室 ☎(45)6219



老後・相続のことについて話したことがない人は、6割

Q あなたは、家族で老後・相続のことを話し合ったことがありますか？



出典 NPO法人ら・し・さ(終活アドバイザー協会)「終活意識全国調査」

終活 しゅうかつ

ABOUT

終活とは、セカンドライフをより良く生きるために、これまでの自分を振り返り、これからの人生をイメージし、デザインすること。

人生の最期を託すために、延命治療・介護・葬儀・相続などについての希望を元気なうちに考え、準備をすることが大切です。現実的な準備ができてこそ残された家族への負担を減らすことができます。

終活セミナー

終活に対する理解を深めることを目的とした終活セミナーは、金融機関などの協力により「人生100年時代 今から準備しておきたい知識と対策」などのテーマで各公民館などの身近な場所で開催しています。

講座案内

さくらノートの書き方を学ぶ 終活セミナー

- ▶ 日時 11/21(火) 11:00~11:30
 - ▶ 場所 横根公民館
 - ▶ 定員 20人(先着順)
 - ▶ 料金 無料
 - ▶ 申込 直接会場へ。
- 問/横根公民館 ☎(46)7722



参加者の声



参加するまでは、正直終活のことはピンときていませんでした。しかし、セミナーに参加してみて自分の思いを家族に残すことは大切だと思いました。まずは、さくらノートを書いてみたいと思います。

参加者の声



終活のことを考えるきっかけになればと参加しました。とても分かりやすい説明で、参加してよかったです。娘と同居しているので、自分のこれからのことを話し合う機会を作りたいと思いました。

大府の未来へ想いをつなぐ 遺贈寄附を受け付けています



近年、社会貢献に対する関心が高まる中、市では遺贈による寄附を受け付けています。遺贈とは、遺言により遺産を特定の個人・団体に贈ったり、寄附したりすることをいいます。皆さんの貴重な資産を市に寄附していただくことにより、そこに込められた思いやメッセージが次の世代に受け継がれるよう、有効に活用させていただきます。

市では、皆さんの大切な思いを確実に残すため、金融機関と遺贈寄附に関する協定を締結し、専門的な知見を生かし、遺贈寄附のお手伝いをします。詳細は、市ウェブサイトをご覧ください。

一人一人が安心して暮らせるよう支援していきます



長い間の生活と心情を積み重ねてきた、かけがえない人生や郷土への思いを大切な人たちに伝えませんか。市では、超高齢社会を迎えるにあたり、あなたの大切な人に思いを伝えるお手伝いをしたいと考えています。

さくらノートは、元気なうちにこれまでの自分自身を振り返り、これからの人生をイメージするために作りました。家族で今後のことを話し合うきっかけにもなりますので、自分の考えや思いを書き留めてみてください。10/2(月)からは、あなたの想いを大切な人たちに伝えていくために、終活登録制度「わたしのさくら登録」を始めます。この機会に、さくらノートの作成とともに、この制度を利用してみませんか。

福祉総合相談室 山下智子

ABOUT

終活登録制度



いざというときにに向けて終活の準備をしてきた方が、自分で判断することが難しくなったり、亡くなったりした場合に、さくらノートの保管場所やノートに記入した内容が分からなくなってしまうことも考えられます。

このような場合に備える終活登録制度「わたしのさくら登録」を、10/2(月)から開始します。本人の残した大切な思いやメッセージが未永く引き継がれていくよう、終活に関する情報を事前に登録しておくことで、万が一の際に警察などの関係機関や事前に登録した方に情報を開示できます。

▶ 対象 市内在住のさくらノートをお持ちの方(所持希望者)

▶ 登録可能な情報

- ① さくらノート保管場所
- ② もしものときに連絡してほしい人
- ③ 預貯金・保険情報 ④ かかりつけ医
- ⑤ 人生の最終段階の医療 ⑥ 献体・臓器提供
- ⑦ 遺言書 ⑧ 葬儀 ⑨ お墓 について

▶ 登録情報の開示先

- ① 警察署 ② 消防署 ③ 医療機関 ④ 福祉事務所
- ⑤ 事前に登録された開示先

▶ 料金 無料

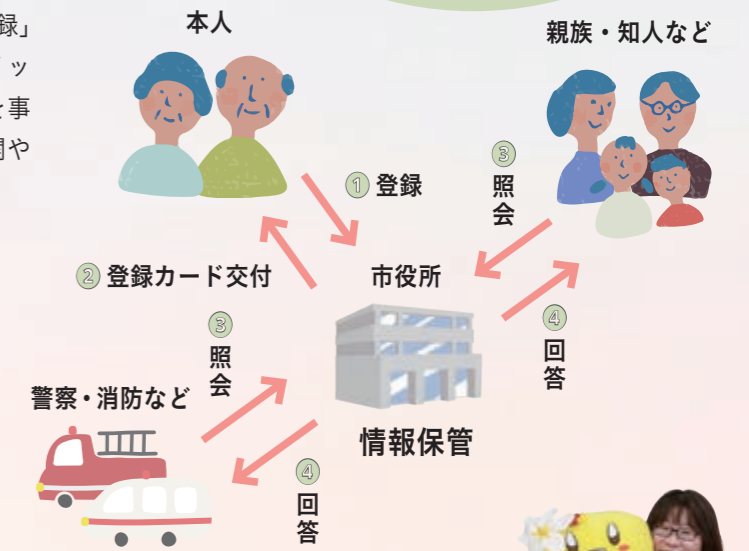
▶ 申込 10/2(月)から、本人確認できる書類と記入済みのさくらノートを持参して、福祉総合相談室(8番窓口)へ。
※認知症などで本人による判断が困難な場合は、後見人などが代理で申請できます。

※情報を登録した証として、登録カードを交付します。



県内初 終活登録制度 「わたしのさくら登録」

皆さんが、病気などによって意思表示が難しくなった場合や、いざというときに、関係機関や自分が指定した方に思いを託すことができます。



自分のため、家族のための終活

NPO法人福祉サポートセンター
副理事長 丸山冬芽さん

人はみんな、生まれた時から「死」に向かって歩いていきます。誰でも最期を必ず迎えます。それは、高齢者だけの話ではありません。日頃から家族で、「生きること」「死ぬこと」について、楽しく話し合える機会が持てるようになるといいと思います。「死」に対する価値観や最期の希望を伝えないまま、この世を去ることになったら、残されるパートナーや家族の皆さんが悩むかもしれません。自分の大事な人の命の時間や治療の選択を決めるのは、とても難しくつらいことです。そんな事が起きないよう、自分事として「楽しく終活」していきませんか？



考えられるうちに今後のことを考える

昨年、パートナーを亡くして、一人になってからは不安なことだらけでした。この終活登録制度は、自分が病気になったときでも緊急連絡先へと連絡がつながるので、とても安心ですね。1年間は頭が真っ白で何も考えられませんでした。やっとなんか自分自身のことを考えられるようになったので、終活について真剣に考えていこうと思います。まずは、自分で考えられるうちに、今後の人生でしてほしいことをさくらノートに書き込んでいきたいです。

佐藤キサ子さん

